

夏の節電対策について

平成 24 年 6 月 19 日
日高農業改良普及センター

国内の原発が停止しており今夏における電力需給は厳しい状況が予想され、道内においても 7 パーセント以上の節電が求められています。

農業分野においても、農作業、家畜の飼養管理の適切な実施を行い、農業生産や農畜産物・加工品など食品の品質の維持、安全・安心の確保に影響しない範囲で、節電に努めましょう。

＝ 節電要請期間と時間＝

7 月 23 日（月）～9 月 14 日（金）の平日 9 時～20 時

注 1）お盆期間（8 月 13 日～15 日）を除く

注 2）9 月 10 日（月）～14 日（金）は、17 時～20 時

◆ 共通事項

- （1）長時間使用しない農業機器等の電源は切っておく。また、使用していないプラグはコンセントからこまめに抜き、待機電力を抑える。
- （2）電気を消費する不連続的な作業は、可能な限り電力消費量の少ない夜間又は土曜日や日曜日に行う。
- （3）電気を使用する農機具、農業用機械は、定期的に清掃し、運転効率を高める。
- （4）扇風機・換気設備等は、可能であればインバーター制御や送風効率の高いものに変更する。
- （5）施設内の照明器具は、可能であれば LED 式や高効率蛍光灯などの省エネタイプに交換する。
- （6）事務・作業室等の施設では、不要な照明はできるだけ消灯し、長時間使用しないパソコン機器等は電源を落とすか、省エネモードに設定する。

◆ 畑作

小麦乾燥調製施設では、乾燥時間を短縮させることが節電につながる。このため、乾燥作業の効率化に向けて、以下の点に注意して収穫作業に努める。

（1）成熟期の判定

「小麦適期収穫のための穂水分測定による成熟期予測法」などを活用し、ほ場ごとの収穫時期を予測し、水分の低下した麦から効率的に収穫できるよう準備を進める。

（2）収穫作業の留意事項

生育ムラのあるほ場は、登熟が進んでいる部分から収穫（トラ刈り）し、子実水分が均一となるようにする。

◆ 園芸

(1) 栽培施設

ア 換気扇や自動カーテン装置を設置しているハウスでは、天窗や側窓での換気に努め、換気扇やカーテンの稼働時間の短縮を図る。

イ 高温時期には天面や側面を遮光資材で被覆し、ハウス内の温度上昇を抑制する。

(2) 出荷調整作業

ア 収穫作業や出荷調整作業は、品温の上昇を抑制するため、可能な限り涼しい朝夕に行うとともに、収穫物はすみやかにほ場から搬出するように努める（やむを得ず収穫物を一時的にほ場に堆積する場合は、直射日光が当たらないよう注意する）。

イ 出荷調整作業施設の照明は最小限にとどめ、採光や通風を改善し室温の上昇を抑制する。

ウ 共選出荷施設等に搬入する場合は、共選機械の作業時間の短縮を図るため、出荷前の選別をしっかりと行う。

(3) 予冷（自家用を含む）・集出荷施設

ア 過度な低温にならないように設定温度を調節する。

イ 冷気が全体に行き渡るように庫内を整理する。

ウ 出入口にカーテンをし、扉の開閉は最小限にとどめる。

エ 冷蔵施設の保守点検を行うとともに、必要に応じ断熱補強を行い、保冷性を高める。

オ 出荷物の搬入の時間帯を調整し、共選・出荷ラインはできるだけ集約する。

◆ 酪農・畜産

従来の作業に係わる電力消費に加え、暑熱対策のために消費電力量が多くなる季節となる。電力に頼らない暑熱対策に取り組みながら、節電できることがらに取り組む。

(1) 電力を要しない暑熱対策

ア 窓を全開放するなど、畜舎内の風通しを良くし、換気を促進する。

イ 畜体の毛刈りやパドック・放牧地への日かげの設置を行い、体温の上昇を防ぐ。

ウ 新鮮で冷たい水が十分に給与される工夫をする。

ウ 畜舎の南側は、遮光ネット等を設置して、直射日光をさえぎる。

エ 屋根トタンを石灰で白く塗る等、畜舎の温度低下に努める。

(2) 最大使用電力量の抑制

電力を消費する搾乳機器とバルククーラー、ふん尿処理設備、換気設備等の定格電力を把握した上で、稼働させる機器の時間帯を分散させ、最大使用電力量を抑制する。

特に電力消費の大きい搾乳作業（搾乳機器、バルククーラー）は、可能な限り電力を消費するその他の作業と集中しないように工夫する。

(3) バルククーラーの冷却効率の向上

バルククーラーの冷凍機は、使い方・管理の仕方によって電力消費量が変わるので、次の周辺管理を見直す。

ア 冷凍機の周辺にはものを置かず、風の通りをよくする。また、機械本体に日射が当たらないよう注意する。

イ 冷凍機のフィン（放熱板）に詰まった埃やゴミはエアブラシ等できれいに取り除く。この時、高圧洗浄機の使用は装置を傷めるので、避ける。